第33号

阿賀野川 えーとしだより aganogawa E-toko dayori



「ドローンから撮影した、上流の山地から下流の平野へと抜け出る阿賀野川」場所:阿賀町石間/佐藤安男氏撮影

地域再生の取組のデジタル化を加速する機会に

県内小・中学校の児童・生徒の皆さんへ

第23回 新潟水俣環境賞作文コ

新潟水俣病や新潟県内の自然について思ったこと、身の回りの環境について考えたこと や体験して感じたことなどを書いてください。皆さんの応募をおまちしています。

- 例えば、「新潟水俣病」「住んでいる地域の環境」「新潟の自然(森林・川・湖沼・海と環境問題)」「総 合学習等で取り組んでいる環境問題」「水の安全、食の安全」について、体験したことや気づいたこ と、考えたことを書いてください。
- 作文の応募はA4版400字詰め原稿用紙で、小学校1·2年生は600字~800字、小学校3·4年生は800 字~1000字、小学校5·6年生は1000字~1200字、中学校1·2·3年生は1200字~1600字です。
- 優秀賞者には表彰状と図書カード1万円分を贈ります。佳作者には表彰状と図書カード3千円分を贈ります。
- 応募していただいた方全員に参加賞を贈呈します。



お問合せ先●新潟水俣病被害者の会 TEL025-281-2466 / FAX025-281-8101 (作文の送付先●〒950-0965 新潟市中央区新光町 6-2 勤労福祉会館 3 階 新潟水俣病被害者の会)







このコンクールは、新潟水俣病被害者の「こんな 苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ 苦しみを味わわせてはならない」という切なる思い から、次代を担う子どもたちに身の回りの環境に関 心をもってもらおうと、新潟県内の小・中学生を対 象に毎年開催されています。



優秀賞受賞者と作品テーマ

「次は僕たちが後世へ語り継ぐ番」 ◆小学校3・4年生の部



「自然のおくりもの」 松本護也さん

※作文の全文は、「阿賀野川え~とこだ!流域通信」に掲載してありますので、ぜひご覧ください

(新潟市立亀田東小学校4年)

(新発田市立外ケ輪小学校5年)

「日本人の責務」

勝見ゆずなさん

◆小学校5・6年生の部

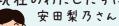
◆中学校の部



阿部由佳さん

(新潟明訓中学校2年)

「現 在のわたしたちに必 要なもの」



主催:新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会 後援:新潟県・新潟県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、新潟日報社、

「阿賀野川え~とこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略 称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と 向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関 係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合 い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え~とこだ!憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな 価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に 発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむ ぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確 (阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第33号はいかがでしたでしょうか?

今年も昨年と同様に、新型コロナウイルスの流行が続 いているため、今年度は FM 事業のツアーやイベントを オンラインで開催します。新しい試みとなりますので、 で都合がよろしい方はお気軽にで参加いただけますと 幸いです☆

3月発行予定の次号もご期待ください!



ら撮影した一枚。写真左に広がる集落は五泉 市の咲花温泉街で、そのすぐ先に下流の平野 に用水を提供する阿賀野川頭首工も見える。

阿賀野川え~とこだより 第33号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2021年10月11日 企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424 aganogawa@niigata.email.ne.jp 阿賀野川え~とこだ!流域通信 https://aganogawa.info/

∥ え~とこだよりのバックナンバーも見れます!\



この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。